

製品名: PAK1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02803**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット、ハムスター
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル抗体
形態	液体
濃度	0.16mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 61 kDa; Observed MW: 61 kDa

抗原情報

遺伝子名	PAK1
別名	PAK1; Serine/threonine-protein kinase PAK 1; Alpha-PAK; p21-activated kinase 1; PAK-1; p65-PAK
遺伝子 ID	5058
SwissProt ID	Q13153
免疫原	ヒト PAK1 の合成ペプチド

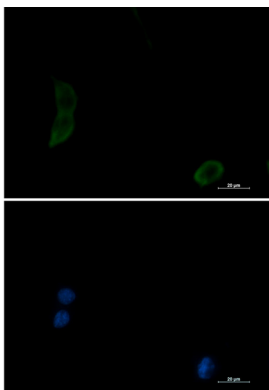
背景

活性化されたキナーゼは様々な標的に作用する。Rho 関連 GTPase を JNK MAP キナーゼ経路に結びつける GTPase エフェクターである可能性が高い。CDC42 および RAC1 によって活性化される。ストレスファイバーの溶解と局所複合体の再編成に関与する。TBCB のリン酸化を介して微小管生成の調節に関与する。

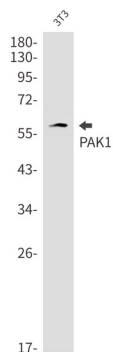
研究分野

細胞生物学

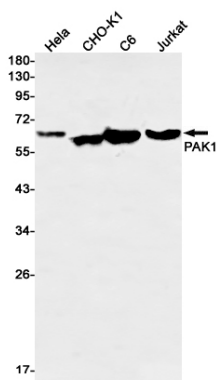
画像データ



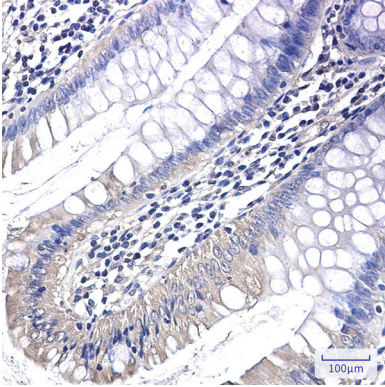
PAK1 抗体と DAPI (青) を使用した 3T3 の PAK1 (緑) の免疫細胞化学分析。



PAK1 抗体を使用した 3T3 溶解物中の PAK1 のウェスタン ブロット分析。



PAK1 抗体を用いた HeLa、CHO-K1、C6、Jurkat ライセート中の PAK1 のウェスタンブロット分析



PAK1 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。